

当科における切除不能進行・再発 胃癌に対するSOX療法の経験

いし ばし しゅう いち まつ ばら たけし ひら はら のり ゆき
石 橋 脩 一 松 原 毅 平 原 典 幸
たか なし とし ひろ た じま よし つぐ
高 梨 俊 洋 田 島 義 証

キーワード：高齢者，SOX療法，切除不能進行・再発胃癌

要 旨

最新の胃癌ガイドラインで，TS-1+オキサリプラチン（L-OHP）併用のSOX療法はHER2陰性の切除不能進行・再発胃癌に対する一次治療における推奨度2の標準治療となった。今回，切除不能進行・再発胃癌に対するSOX療法の有用性を自験例で検討した。

【方法】2014年12月から2015年12月までにSOX療法を施行した6例を対象とした。L-OHPは原則100mg/m²を3週間毎としたが，患者の状態により適宜減量した。

【結果】6例の内訳は切除不能進行例4例，再発例2例で，男性4例，女性2例であった。平均年齢は79歳で，4例が80歳以上であった。投与回数の平均は4.3回で，Progressive disease (PD)を1例に認めた。有害事象はCTCAE v 4.0のAll gradeで貧血，末梢神経障害などを認めたが，grade 3以上は貧血，食欲不振のみであった。これら有害事象の発生頻度を80歳以上に限定し，TS-1+シスプラチン併用療法（SP療法）と比較したが，低い傾向にあった。

【結語】SOX療法は高齢者胃癌でも有害事象が少なく，忍容性が高いと考えられた。

はじめに

切除不能進行胃癌・再発胃癌患者を対象としたJCOG 9912試験およびSPRITS試験でTS-1単剤に対するTS-1+シスプラチン(CDDP)併用療法（SP療法）の優越性が示された。SP療法に

おける全生存期間（OS）は13.0ヶ月と良好で，この結果を受けて本邦では現在，SP療法が一次治療の標準治療と位置づけられている¹⁾。オキサリプラチン（L-OHP）に関してはTS-1を併用したSOX療法の第Ⅱ相試験が本邦で行われ，奏効率と全生存期間の中央値が良好であった結果を受けて第Ⅲ相試験（G-SOX試験）が施行された。その結果が2015年に報告され，SP療法に対する無増悪生存期間（PFS）の非劣性が証明された²⁾。

Shuichi ISHIBASHI et al.

島根大宇医学部消化器・総合外科

連絡先：〒693-8501 出雲市塩冶町89-1

島根大宇医学部消化器・総合外科